



鉄道高架化通信



第39号

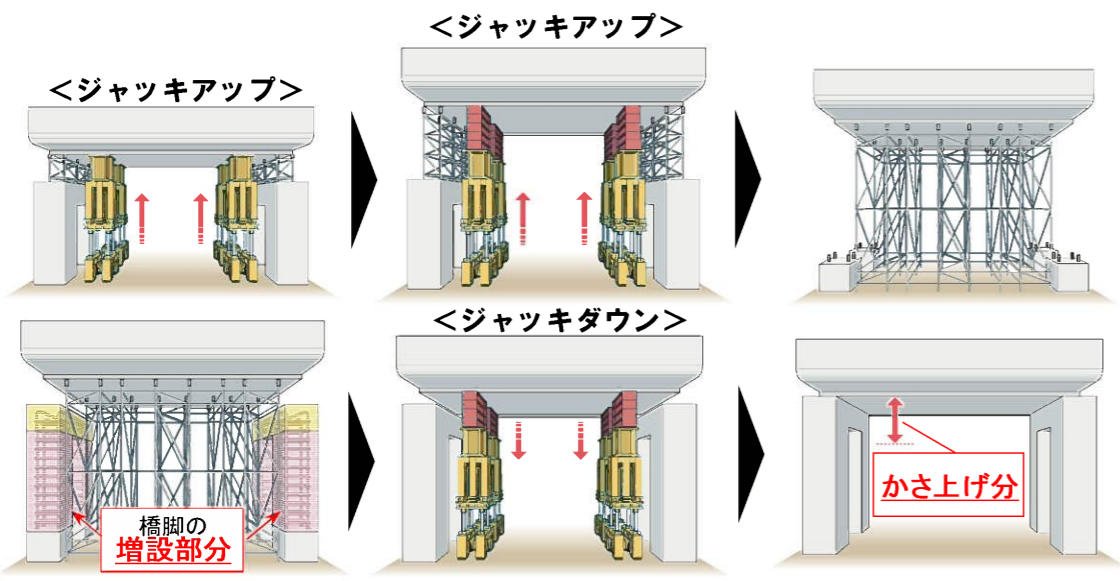
令和6年3月発行

発行：豊田市建設部街路課

～教えて現場監督さん（戸田建設(株)編）～

八橋高架部ジャッキアップについて

1 1月末から進めていた八橋高架部の橋桁のジャッキアップがすべて完了しました。現在、足場を組んで橋桁を支えながら、橋脚（柱部分）の一部を再構築し、つぎ足す作業を行っています。この作業が終わると、橋桁を再び下ろすジャッキダウンを行います。

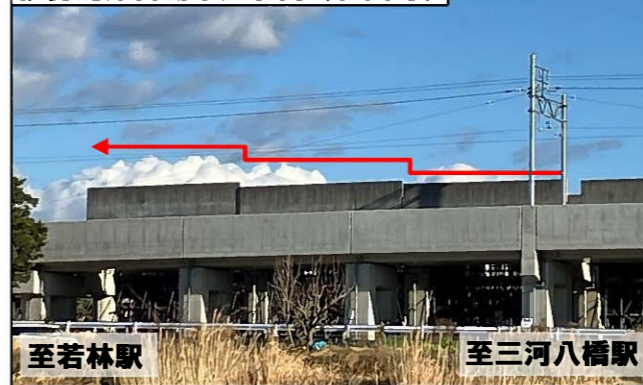


2日間密着したジャッキアップの動画をYouTubeにアップしています。ぜひご覧ください。



橋桁によって、ジャッキアップした高さが違うのはなぜなの？

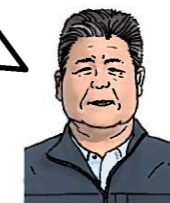
伊勢湾岸自動車道北側（花園町）



至若林駅

至三河八橋駅

この区間は、若林駅方面に向けて、線路が少しずつつ上っていくため、若林駅方面に向けて橋脚の増設部分がだんだん大きくなります。このことから、橋桁によって、かさ上げ分が異なるため、必要なジャッキアップの高さが違うのです。



ジャッキダウンは、いつごろになるの？

令和6年の夏ごろからはじまる予定です。



事業スケジュール

① 用地の取得

② 準備工事

③ 工事説明

④ 仮線工事

令和3年7月着手

⑤ 仮線への切替

令和5年3月切替

⑥ 高架本体工事開始

令和5年5月

⑦ 高架本体への切替

⑧ 仮線撤去・側道等の整備

⑨ 工事完了

ちょっと途中下車（アンコール）

～あの歴史あるレールはどこへ～

鉄道高架化通信第27号での、若林駅旧ホームの上屋の一部に歴史あるレールが使われていた、という記事を覚えていますでしょうか。

ちょっと途中下車

こんなところにレールが、、、

3月3日の最終列車をもって役割を終える若林駅のホーム。その上屋の一部に鉄道のレールが使われていることをご存知でしたか。名鉄の方の話では、1800年代に外国で製造されたレールを加工し、屋根を支える材料として使用しているとのこと。全く知らなかったので驚きました。これまで当たり前のように利用していたホームがこれで最後となると寂しく感じてしまいます。通勤通学で毎日のように使われた方、家族旅行で心躍らせながらホームを歩いた方、豊田市での生活の第一歩がこのホームだった方など、皆さんいろいろな思い出があるかと思います。担当として10年間まちの様子を見てきましたが、鉄道高架化事業が進んでいることを実感すると同時に、歴史あるホームの存在感を再認識しました。



現在、若林駅旧ホームの施設は全て撤去され、本線工事が進んでいます。しかし、歴史あるレールを処分するのは、、、との思いから、名鉄の方のご協力を得て、レール製造年の刻印がある部分を切り出し、一時保存していました。

このたび、その「歴史あるレール」と「旧線の施設の一部を使用した実物大の鉄道施設の再現（レール、枕木、バラスト）」を名鉄の方のご厚意により豊田市に提供いただきました。今後、沿線の小中学校や交流館に展示し、地域の皆様に見て、触れて、三河線の歴史を感じていただけたらと考えています。これをきっかけに、鉄道や鉄道工事にご理解をいただき、今後の工事を温かく見守っていただけると嬉しいです。

歴史あるレール



鉄道施設の再現



問合せ先

豊田市建設部街路課 建設第3担当
電話番号：0565-34-6651（直通）
FAX番号：0565-35-8196
メール：gairo@city.toyota.aichi.jp